

<u>目次</u>

<u>運営統括挨拶</u>	2
全米団派遣事業とは	3
模擬国連会議全米大会とは	4
<u>全米団の活動について</u>	5
<u>渡米前</u>	6
<u>選考プロセス</u>	. 7
■ <u>団員育成プログラム(DDP)</u>	
A. F. Transport	
<u> </u>	13
■ ブリーフィング	15
<u></u>	. 16
A-1- 1 - 40	
 ■ <u>事業運営</u>	
<u> </u>	
<u>もっと知りたい全米団</u>	26
Dear Future Delegates	32
	42
HP・SNSのご案内	44
<u>助成財団•後援先紹介</u>	45

運営統括挨拶

皆様、こんにちは。模擬国連会議全米大会第40代日本代表団派 遣事業運営局にて運営統括並びに団長を務めております、渡辺由 璃子です。

全米団は、新たな仲間に出会い、彼らと切磋琢磨することで、たくさんの知識や能力を身につけ、成長した新たな自分を見つけることができる場です。全米団の活動を通して得た経験は、模擬国連での活動にとどまらず社会においても役立つに違いありません。

このガイドブックを手にとってくださった方の中には全米団に興味を持ち、アプライを検討している方もいらっしゃると思います。そのような方は、是非、全米団への理解をより深めると同時に、全米団の理念・事業内容と自身のやりたいことを照らし合わせ、これからの大学生活についてじっくりと考えてみてください。

このガイドブックがその一助になり、より多くの人に全米団を知っていただくきっかけになれば 幸 いです。

2022年8月

模擬国連会議全米大会第40代日本代表団派遣事業 運営統括・団長 渡辺由璃子

全米団派遣事業とは

全米団派遣事業とは、日本模擬国連JMUN:Japan Model United Nations)に所属し、模擬国連活動を行う全国の学生の中か ら選抜された9名程が、日本代表団としてニューヨークで開催される 模擬国連会議全米大会に参加する事業です。当事業は、日本模擬 国連の主催事業の1つであり、多くの財団様や企業様、顧問の先生 方やJMUN会員の皆様の御支援の下、前年度に選出された派遣団 員によって運営されています。1983年に第1代が派遣されて以来、 今年で40年目となります。当事業で派遣された日本代表団は、過去 参加した37回の大会中24回、2008年から新型コロナウイルス感染 症(COVID-19)拡大のため中止となった2020年を除いた2021年ま で13年連続で表彰されており、毎年高い評価を得ております。今年 度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による渡米中止 のため、模擬国連会議全米大会への参加は叶いませんでしたが、 DDPの一貫としてNTUMUN(Nanyang Technological University Model United Nations)に出場し、国際連合食糧農業機関FAO)に おいて2名の派遣団員がVerbal Commendation Awardを受賞いた しました。

毎年全米大会に向け、派遣団員は渡米前に団員育成プログラム (DDP:Delegates Development Programme)に参加し、政策立案 能力をはじめとした、集団討論やプレゼンテーションのスキルなど全米大会、さらには社会で役立つ能力を身につけます。その後、渡米前の政策発表会にて、自身が全米大会で提案する政策を発表し、顧問の先生方からの助言を基に全米大会へのブラッシュアップや長終調整を行います。渡米中は、提携校の学生と政策調整、全米大会への出場に加え、国連職員や国際連合日本政府代表部の方と、公司に派遣する為に、DDPの設計、資金管理、渡米の引率など、1つの大きな事業を運営することになります。このような運営の活動も含め、当事業はここでしか得られない貴重な経験を提供するために努力しております。

また、当事業のOBOGの方は、国連職員、国家公務員、大学教授、弁護士のほか、様々な企業に就職され、国内外問わず多方面でご活躍されています。

模擬国連会議全米大会とは

模擬国連会議全米大会(NMUN: National Model United Nations Conference in New York)は毎年3月下旬からから4月上旬頃に、アメリカのニューヨーク市内のホテルと国連本部の会議場を使用して開催される約5日間の模擬国連の世界大会です。

本大会は、世界中で行われている模擬国連会議の中でも世界最大規模を誇る大会であり、アメリカを中心に世界30カ国以上から5000人以上の学生が参加します。例年20もの国連機関や国際機関の模擬会議が設定されており、参加者は国連加盟国やオブザーバー、あるいは非政府組織の代表としてそれぞれの会議に参加し、議論や交渉を行います。全米大会は毎年大変な盛り上がりを見せており、国際的な評判も高まっています。

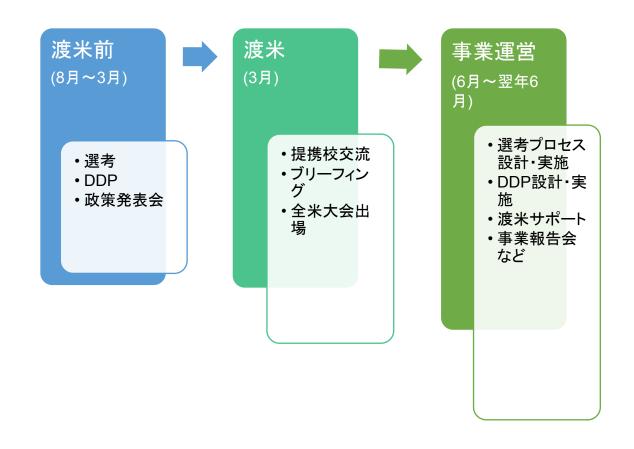
今年度の日本代表団の参加予定議場は、国連総会の各種委員会や国連開発計画(UNDP)、国連平和構築委員会(PBC)、国際移住機関(IOM)、国連女性の地位委員会(CSW)、国連環境計画(UNEP)、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC)などでした。

全米団の活動について

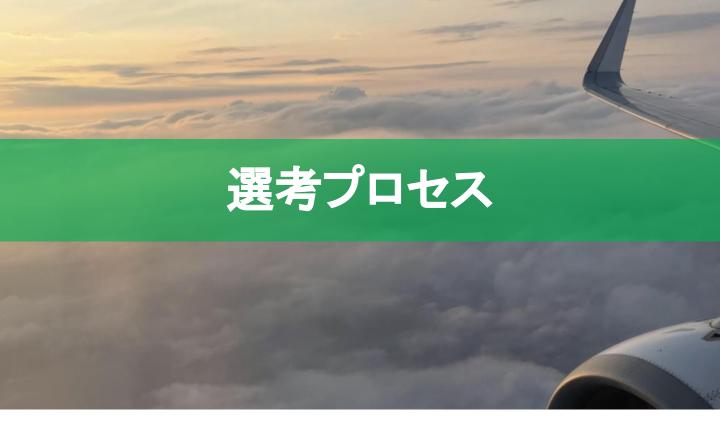
全米団では、派遣団員(通称団員)と運営局員(通称局員)で構成されており、その活動は大きく「団員期」と「局員期」に分けられます。

「団員期」では、選考や全体で行う団員育成プログラム(DDP)、政策発表会、任意参加の英語DDPなどの全米大会に向けた準備期間である渡米前活動を経て、渡米します。渡米期間中には、提携校交流や国連職員の方々からのブリーフィング、そして全米大会へ出場します。

団員としての活動を終えると、「局員期」が始まります。「局員期」では、次期団員の選考、渡米のサポート、また全米団の活動を支えるための渉外活動などの事業運営を学生の手のみで行います。







~全米団への第一歩~

選考プロセスは例年9月から10月の約2ヶ月に渡って実施されます。例年論文課題や面接、対話型コンテンツが選考課題として課されますが、選考課題の具体的な内容は毎年異なります。また、全米団の選考プロセスは単なる新団員の選抜のみでなく、応募者全員にとっての成長の機会になることが期待されます。選考期間中は優秀な他の応募者と切磋琢磨できるとともに、選考プロセス終了後には今後に役立つ全米団局員からのフィードバックが応募者全員に対して行われます。

選 考 プロセス 担 当 より

選考プロセスは、一筋縄ではいきません。応募者各々が自己の課題に向き合うことになります。同時に、他者から様々な刺激を受け、多くを学びとることになるでしょう。この過程を通して成長を追い求める応募者の皆様を、第40代局員一同お待ちしております。選考についての詳細は、公式HPにて公開される応募要項をご覧ください。

(片山菜穂)



~全米大会に向けた準備期間~

団員育成プログラム(DDP)とは、11月から渡米直前の3月まで行われる全米大会参加に向けての団員たちの能力育成を図るプログラムです。団員はDDPを通して政策立案の具体的な手法やNMUN出場をはじめとする全米団活動において必要となる論理的思考力、コミュニケーションスキルなど様々な能力を身につけることができます。この場で培った能力は、NMUNのみならず今後の模擬国連活動や社会生活の中でも大いに生かすことができるでしょう。

DDP 担 当 より

大学生活のうち多くを捧げて取り組む全米団活動で費やした時間以上のものを得られるようなDDPを実施したいと考えています。そのようなDDPを実施するにあたって、全米団やDDPに対して熱意溢れる方々を歓迎します。

(下岡拓嗣)



団員育成プログラムは、諸先輩から様々な知恵を伝授される機会を得ただけではなく、自発的に学び自分を高める場にもなりました。全体では政策立案、議論、自己分析をするにおいて必要なツールを学びましたが、最終的にそれらをどのように活用していくかは個人に委ねられている面で自由度の高い学習と成長をすることができました。実際に得た知識やスキルを捉え直したり、自分を見つめ直したりと、仲間と互いに刺激し合いながら現状打破を目指していく、このような環境で学ぶことができたのは非常に貴重な経験でした。

(細川未智)

団員育成プログラムにおいて、自身の政策に関して運営局員や顧問の先生方から、客観的・批判的な評価をもらえたことはその後の政策立案プロセスに大きく寄与しました。全体DDPでは、問題分析から問題決定、そして政策立案までのプロセスを学び、実践し、フィードバックをもらい、振り返るという一連の過程を繰り返し、頂いたフィードバックや自分と他の団員との比較を踏まえた自己内省が成長へと繋がりました。一方で、個人DDPではペアの局員の継続的なサポートと政策に対する客観的な批判が再考に繋がり、政策の精度を上げることができました。

(喜友名理沙)





~更なる成長へ~

政策発表会は例年2月に行われます。約半年のDDPを通して政策立案を終えた派遣団員が、全米大会に向けた準備過程の報告や約半年のリサーチの成果発表を行い、また、専門家の方々からフィードバックをいただき大会までに政策をブラッシュアップします。

局員からの声

政策発表会前は、自分の立案した政策が果たして専門家の方々の前で通用するものなのかとても不安でした。また、直前まで問題分析に悩んでいたことも不安の要素の一つでした。本番はとても緊張しましたが、準備してきた力を発揮できたのでよかったです。専門家の先生方からは政策の具体化の点において評価いただき、自信に繋げることができました。また、リサーチ段階では思いつかなかったアイデアを、先生方のご教示から得る事ができました。

(山下咲子)



~更なる成長へ~

局員からの声

政策発表会では、自分が長期間かけて練り上げた政策を発表し、その政策に関して顧問の先生方からアドバイスを頂いたことで、多くの学びがありました。また、この政策発表会は自分の政策のブラッシュアップができただけでなく、DDPで培ってきたプレゼンテーション能力も試すことができる場でした。政策をはじめ、プレゼンの作成・練習など、政策発表会に向けての準備は簡単なものではありませんでしたが、その分またとない貴重な経験でした。

(織田万結子)





~全米団から繋がる交流~

全米団は毎年、アメリカの大学と提携し、合同代表団の形で全米大会に参加します。第39代団員はカリフォルニア州にあるRiverside City Collegeと提携しました。

派遣団員は提携校の学生とペアで1つの議場を担当し、大会参加に向けて準備に励みます。例年、渡米前は定期的にペアとミーティングを開き、ポジションペーパーの執筆や議題のリサーチを分担しながら一緒に取り組みます。そして渡米後1週間ほど提携校に訪問し、会議の最終準備を行ったり、文化交流などを通してさらに親睦を深めます。大会当日、提携校のペアと一緒に1国の大使として、会議に臨みます。

第39代団員は、新型コロナウィルスの影響により渡米は出来ませんでしたが、事前に提出するポジションペーパーを共同で執筆することが出来ました。私は提携校の学生2人と3人グループで活動し、文書作成の進捗状況の共有をしたり、家族や趣味の話など他愛ない 会 話 をチャットで 日 々やり 取 りしていました。



~全米団から繋がる交流~

さらに、第39代は、3月下旬に提携校の学生と時間ほどのオンライン交流会を開催しました。交流会では、ブレイクアウトルームで、15分程度の他愛のない会話を何度か行いました。担当の議場や議題について語ったり、文化や言語について、趣味や大学生活についてなど、各グループで自由に楽しく話せました。交流会が終了する頃には、提携校の参加者ほぼ全員と話すことができ、時間は短かったものの、内容の濃い時間を共に過ごすことができました。また世界のどこかで直接会えることを楽しみにこれからも頑張ろうと思える、第39代提携校交流でした。

(上村まりね)



~ロールモデルから得る学び~

例年はニューヨーク滞在中に、団員の興味に沿った国連機関並びに日本政府代表部を訪問します。今年は、3月下旬から4月上旬にかけてUN Women、UNDP、IOM、UNIDO、国連日本政府代表部の5つの機関にブリーフィングを実施していただきました。オンラインで行ったため、例年とは異なり日本に事務所がある機関の方からお話を伺いました。

局 負 からの 声

ブリーフィングで初めて知った国連機関がたくさんあり、それぞれの機関の役割や活動内容など細部の情報まで学び、今後の模擬国連活動や社会人なっても通用する知識を得ることができました。実際にUNIDOのブリーフィングでは、多くの言語を身に付け、専門性を高める方が有利であるなど、私たちに向けて将来のための様々なアドバイスを頂きました。

(渡辺由璃子)



~世界の学生と模擬国連会議~

全米大会は、約3週間の渡米プログラムにおけるメインイベントで す。大会期間は5日間で、例年、会議は主にニューヨークのホテル で、閉会式は国連本部にて行われます。議場によっては、193カ国 が出場するなど、日本の模擬国連の会議では経験できないような大 -ルのものもあります。このように、世界中から集まった 学生たちと議論を交わすことは、間違いなく人生において唯一無二 の経験となるでしょう。新型コロナウイルス感染症COVID-19)の影 響で渡米は叶いませんでしたが、第39代派遣団員はペル一政府代 表部としてポジション・ペーパー(Position Paper)を執筆するまで、 Riverside City Collegeの学生とペアを組んで協力し、自分たちの 政策のブラッシュアップを図りました。



~世界の学生と模擬国連会議~

また今年度は、DDPの一貫としてオンラインでNanyang Technological University Model United Nations(NTUMUN)に参加し、実際に「海外の学生と英語で議論をする」ことを体験しました。私(織田)は、国連総会第1委員会(GA1)において「人工知能(AI)の軍事への応用」に関する議論を行いました。当日まで会議の様子がわからず戸惑いつつも、自国の立場を表明するためにスピーチを行ったり、議論の中で積極的に発言したり、様々な働きかけを行いました。自分の政策が決議案(Draft Resolution)に盛り込まれた喜びは相当なものでした。

(織田万結子)

*写真はNTUMUNのものを使用いたしました。

第39代の参加予定議場(NMUN)



渡辺由璃子

参加議場: 国連総会第三委員会(GA3)

優先議題: The Right to Privacy in the Digital Age



喜友名理沙

参加議場: 国連平和構築委員会(PBC)

優先議題: The Role of Regional Integration in Establishing

Peace



田代葵

参加議場: 国連総会第二委員会(GA2)

優先議題: Continued Implemantation of the Third United

Nations Decade for the Eradication of Poverty



片山菜穂

参加議場: 国際移住機関(IOM)

優先議題: Ensuring Access to Preventative Healthcare for

Migrant Workers



細川未智

参加議場: 国連開発計画(UNDP)

優先議題: Sustainable Recovery from COVID-19



下岡拓嗣

参加議場: 国連環境総会(UNEA)

優先議題: IImplementatioing Circular Economy for Sustainable

Development Goals



上村まりね

参加議場: 国連女性の地位委員会(CSW)

優先議題: Achieving Gender Equality in the Context of Climate

Change



織田万結子

参加議場: 国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC)

優先議題: Increasing Access to Technical and Vocational

Education and Training



山下咲子

参加議場: 国連総会第一委員会(GA1)

優先議題: Countering the Threat Posed by Improvised

Explosive Devices

第39代の参加議場(NTUMUN)



渡辺由璃子

参加議場: 国連人権理事会(UNHRC)

担当国: デンマーク



喜友名理沙

参加議場: 国連平和構築委員会(PBC)

担当国: カナダ



田代葵

参加議場: 国連食糧農業機関(FAO)

担当国: デンマーク



片山菜穂

参加議場: 国連人間居住計画(UN Habitat)

担当国: カナダ



細川未智

参加議場: 国連開発計画(UNDP)

担当国: デンマーク



下岡拓嗣

参加議場: 国連環境計画(UNEP)

担当国: カナダ



上村まりね

参加議場: 国連食糧農業機関(FAO)

担当国: オランダ



織田万結子

参加議場: 国連総会第一委員会(DISEC)

担当国: ウクライナ



山下咲子

参加議場: 国連安全保障理事会(UNSC)

担当国: パキスタン



事業運営

帰国後、派遣団員は当事業の運営の担い手となります。財団や企業様、顧問の先生方やOBOGの方々などとの繋がりが深い当事業の運営を通じ、国際問題の社会的認知の推進、模擬国連活動の発展、国際社会において活躍する人材の育成を目指しています。以下運営の大まかな流れを説明します。

事業報告書作成•事業報告会:5月~6月

渡米を終えた派遣団員は団員期の経験を支援してくださっている 多くの方々にお伝えするべく、事業報告書を執筆し、その後事業報 告会を開催します。そしてこの事業報告会をもって派遣団員は運 営局員となります。

選考プロセス:8月~10月

次代の選抜に向けて、選考プロセスの設計をを行います。例年 9~10月に選考プロセスを実施し、10月下旬ごろに次代派遣団員を 決定・発表します。

団員育成プログラム(DDP):11月~3月上旬

派遣団員の決定・発表後、新規団員が全米大会で最大限の力を発揮できるように、運営局員が団員育成プログラム (DDP) を設計し、渡米までの約5ヶ月間実施します。

次代派遣:3月下旬~4月上旬

運営局員は日程調整や諸手続きなど、次代派遣団の渡米を計画 し、引率や渡米中の日本との連絡なども担います。

運営代交代:6月

大会を終えた次代団員は帰国した後、事業報告会をもって代替わりを行い、運営局員はOBOGとなり後輩を見守ります。



第40代運営局紹介

運営局では各局員が役職に就き、協力しながら事業運営を行います。以下は第40代運営局員と各役職の紹介です。

役職名	氏名	所属大学·学年	所属研究会
運営統括·団長	渡辺由璃子	国際基督教大学 2年	国立研究会
副団長·渉外補佐 担当	喜友名理沙	慶應義塾大学 2年	日吉研究会
総務担当	田代葵	国際基督教大学 2年	国立研究会
選考プロセス担当	片山菜穂	国際基督教大学 2年	日吉研究会
研究担当	細川未智	上智大学 2年	四ツ谷研究会
団員育成プログラ ム(DDP)担当	下岡拓嗣	京都大学 2年	京都研究会
会計担当·英語 DDP担当	上村まりね	創価大学 3年	国立研究会
涉外担当·事業報 告書担当	織田万結子	東京外国語大学 2年	国立研究会
企画担当·広報担 当	山下咲子	東京外国語大学 2年	国立研究会

選考 プロセス

DDF

政策発表:

提携校交

ブリーフィング

全米大会 出場 事業運営

運営役職紹介

全米団派遣事業の運営は、渡米前準備や渡米と並ぶ当事業の魅力の1つです。運営局員としての任期は渡米後1年間に渡り、渡米準備と渡米を合わせた期間よりも長くなります。運営局として協力し業務を遂行する上で、運営局員はそれぞれ役職を持ちます。その決定方法や兼職の仕方などは代の方針や各自の研究会での役職によって多少異なりますが、業務を通じて、個人が運営局員として各役職において必要とされている技術・能力を向上させることで、将来の活躍へとつなげます。

運営統括

全ての役職の仕事の進捗状況の確認、必要に応じたサポートを行います。また、全国大会でのスピーチなどを含めた様々な機会における全米団を代表した挨拶や挨拶文の執筆も仕事です。渉外先へ挨拶に伺ったり、代表者会合へ出席したりもします。

団長

渡米に関する事前準備と次代団員の渡米の引率を行います。事前準備は提携校探しや提携校とのミーティング、航空券の手配、ブリーフィング調整、全米大会運営側とのやり取りなど多岐に渡ります。渡米の引率では団員の安全とスケジュールの管理が仕事です。

副団長

運営統括・団長が不在時には代表代理を務めたり、運営統括・団 長を含めた全ての役職や団員のサポートを行います。また、代表団 渡米期間中には、日本の全米団運営局と保護者との連絡係を務め ます。



運営役職紹介

総務担当

運営における事務的事項の総括を行います。各種資料を作成し 印刷したり、選考前のガイドブックの作成をしたり、全米団の必要備 品や全米団主催イベントの会場の手配を行ったりします。ロジス ティックス作成やメーリングリストの管理も仕事です。

選考プロセス担当

選考プロセス実施・運営の総括を行います。具体的にはコンセプトやコンテンツ内容、採点方法などを決定したり、採点集約を行ったりします。また、アプライ者全員へフィードバックシートを作成することも仕事です。

<u>研究担当</u>

選考プロセス担当の補佐として、各種選考課題の具体的設計を行います。また必要に応じて、団員育成プログラム(DDP)の作成や実行の補佐も行います。

団員育成プログラム(DDP)担当

DDP運営の統括を担います。DDPの考案から企画、決定まで行います。また、団員の全米大会に向けた準備の進捗管理も仕事です。

英語DDP担当

英語面でのサポートを行います。DDP内で団員の英語力向上を目的としたコンテンツを企画して実施したり、希望者対象の個人英語レッスンを行います。

運営役職紹介

会計

全米団運営費の管理を行います。年間予算の作成などを行ったり、団費の領収書の管理をしたりします。また、航空券手配や宿泊施設予約など渡米に関する事前準備も仕事です。

渉外

渉外補佐

省庁・国連機関への後援申請や新たな顧問の先生との契約、後援先とのやり取りなどを行います。それに伴って必要な各書類の作成や渉外担当のサポートも仕事です。

企画

OBOG会、政策発表会、新歓説明会、渡米報告会などの企画、運営を行います。また、メーリングリストの管理や会報誌の配信を通してOBOGとの連絡をとることも仕事です。

事業報告書

渡米報告書企画書の作成を行います。原稿執筆依頼を含めた原稿の管理、印刷業者との連絡が仕事です。英語報告書作成も主導します。

<u>広報</u>

全米団の活動の広報を行います。HPを作成して更新したり、 FacebookなどのSNS ツールを活用したりします。また、OBOG名 簿やメーリングリストの管理も仕事です。

ここまでガイドブックを読んでみて、全米団とはどのようなものかなんとなく分かっていただけたでしょうか?この「もっと知りたい全米団」では、全米団についてより深く知っていただけるよう、第0代局員(細川、上村、喜友名)にインタビューをしました!是非お読みください!

Q.全米団にアプライしたきっかけは?

当時の自分は自己確立をするためのヒントを求めていたと思います。将来に対する自分の方向性が漠然としていたので全米団にコミットすることができればきっと国際貢献に関する知見が得られるだろうと。現在でもその動機は変わらず、これまであまり意識していなかったことをあえて意識するようになったという意味で、他者との活動から様々な刺激とシナジー効果を実感しています。(細川)

大学生のうちにしかできない経験、また国際社会に貢献できる人間に成長できる場はないかと探していたら、全米団の存在を知りました。両立への不安や自信のなさから応募するかどうかで長く悩んだのですが、そもそも選考に挑戦する経験自体が自分にとって貴重で価値があると感じ、アプライを決めました!(上村)

私は高校生の頃に全米団の存在を知り、国連に憧れていたため 大学生になったら絶対この事業にアプライしたいと考えていました。 全米団入団後に自身が得ることのできる成長のみならず、選考時に 得ることのできる気づき・成長や、同じ熱意を持った同期から刺激を 受けられ、学べる環境に魅力を感じました。これらは自分自身の今 後の人生に生きる非常に有意義で貴重な経験になると確信してい ます。(喜友名)

Q.DDPを通して最も成長したことは?

DDPではいくつものコンテンツを通して様々な能力を鍛えてきましたが、それらはすべて自己理解能力が深まったことに帰結すると思います。特に論理性を問う内容に取り組んでいる際他者からの刺激によって、私は既存の考えに新たな視点を加えるというから10に発展させるタイプであることを知り、問題分析や政策立案においてから1の視点をもつことが難しい理由に気づくことができました。(細川)

一言でまとめると、能力、精神力、体力ともにタフになったことだと思います。DDPの大きなテーマであった「Keep Thinking」をコンテンツ中に実践したことで、以前より思考の幅が広がったように感じます。また、交渉について学び実践したり、パブリックスピーキング能力を鍛えたりなど、よりよい大使像を求めて自分と向き合い、日々能力を鍛えることで、タフさが身についたと思います。(上村)

DDPを通して成長したことは数多く挙げられますが、その中でも私はとりわけ「自己内省力」が成長したと感じています。DDPコンテンツでは、問題分析や政策立案プロセスにおけるノウハウをただ座って学ぶだけでなく、それを自分なりに咀嚼し、アウトプットし、局員や団員からFBを受けるという一連の流れがあります。この時、自分のアウトプットとFBのギャップを分析し、そこから改善点を探りますが、全体DDP・個人DDPの回を重ねるごとに、自己内省力を鍛えると共に、客観的に自分自身を評価する力の養成にも繋がったと感じています。(喜友名)

Q.NTUMUNへの参加から学んだことは?

発言の質よりも量や回数がプレゼンスレベルを定めるということです。いくら発言するための論理や表現を工夫する訓練をしたとしても、それがいくつもの一貫した発言としてアウトプットされ続けなければインパクトはすぐに薄れ、他の人の発言に塗り替えられてしまう。つまり、他者からの印象は発言を積み重ねることによって変化させられることに気付きました。建設的な議論ができるであろう貧困対策に関する議題で議場が決裂したことは予想外な経験でした。(細川)

想定外の議論展開や模擬国連の文化の違いから、会議初日は戸惑うこともあったのですが、そういう時こそ自分に負けずに、逆境を跳ね返す思考力と行動力が重要だということを実践を通して学びました。また、議場の中で自分だからこそ担える役割を見つけ、他の参加者との言語の壁を超えて、信頼関係を構築する経験もできました。(上村)

参加者の知識量や積極性はもちろんですが、それに加えスピーチやモデの発言における「魅せ方」が非常に上手く、日本の模擬とは違うその特徴に非常に刺激を受け、今後自分自身が模擬国連をやるにあたって、取り入れたい多種多様な大使像に出会いました。また、議場の流れに動じず、自分の担当する国の大使を全うするべく非常に積極的なその外交姿勢に圧巻されました。(喜友名)

Q.全米団に所属して良かったと思うことは?

かけがえのない同期や先輩との出逢いや、OBOGや他の全米団関係者との大切な繋がりが私にとっての宝です。洗練された環境の中でそれぞれのメンバーが発揮する優秀さが互いに適度なプレッシャーとなり、それが自分をより理解し、これからの自分のイメージ作りに役立たせることにつながっていると言えます。全米団と巡り合うことがなければ、今の自分に出逢っていなかったので、アプライを決めた過去の自分に感謝です。(細川)

全米団で身につけた知識や能力は、模擬国連に留まらず、学生生活や社会に出てからも生きるものばかりです。また、全米団に集った個性豊かかつ高いスキルをもったメンバーとの大切な縁や、長期間の大会準備とフィードバックを通じて多角的なスキルをつけるだけでなく、自己理解を深められたことも、全米団に所属して良かった点です!(上村)

全米団に所属してから、積み重ねてきた経験、共に切磋琢磨してきた同期、FBをくださった局員や顧問の先生方をはじめとし、全米団での経験繋がり全ては私の今後の人生における財産です。とりわけ、個人として丁寧な批評を受ける機会があまりない大学生活においてこれほどまでの有意義な機会に恵まれ、同じ熱意と高い志を持ち、そして一人一人色の異なる刺激的な仲間たちに囲まれたこの環境は非常に貴重であり、全米団にアプライして心の底から正解だったと確信しています。(喜友名)

Q.全米団の雰囲気はどのような感じ?

一人一人の主観や代によりますが、全米団は、個人的には安心感と緊張感がちょうど良い具合に存在する集いであると感じます。 公式な組織としては常に考えを絞り出し、意見をぶつけ、重ね重ねに活動の質を高めていくといったタフな環境であると言えますが、その一方で普段では、一緒に困難を乗り越えていく人々として心の広い、安堵感が大いに漂う空間であるとも言えます。(細川)

オンオフはしっかりとしていますが、きっと皆さんの想像以上にとても温かく朗らかな場所です。私自身、入団してから良い意味で印象がガラッと変わりました!(笑)自分なりの目的観を持って、常に考え続け、全力で挑戦し続ける仲間の姿に、いつも鼓舞されています。(上村)

オンオフがはっきりとしていて、お互いを高めあい、一緒に成長していける最高の環境だと思います。お互いがお互いをリスペクトし合っており、心が広く、俯瞰して言動でき、常に思いやりを持ち、一人の長所を活かし合って支え合うこの環境は本当に心の底から居心地が良いです。(喜友名)

Q.全米団を一言で表すなら?その理由は?

「開ける扉を見つけるための鍵」

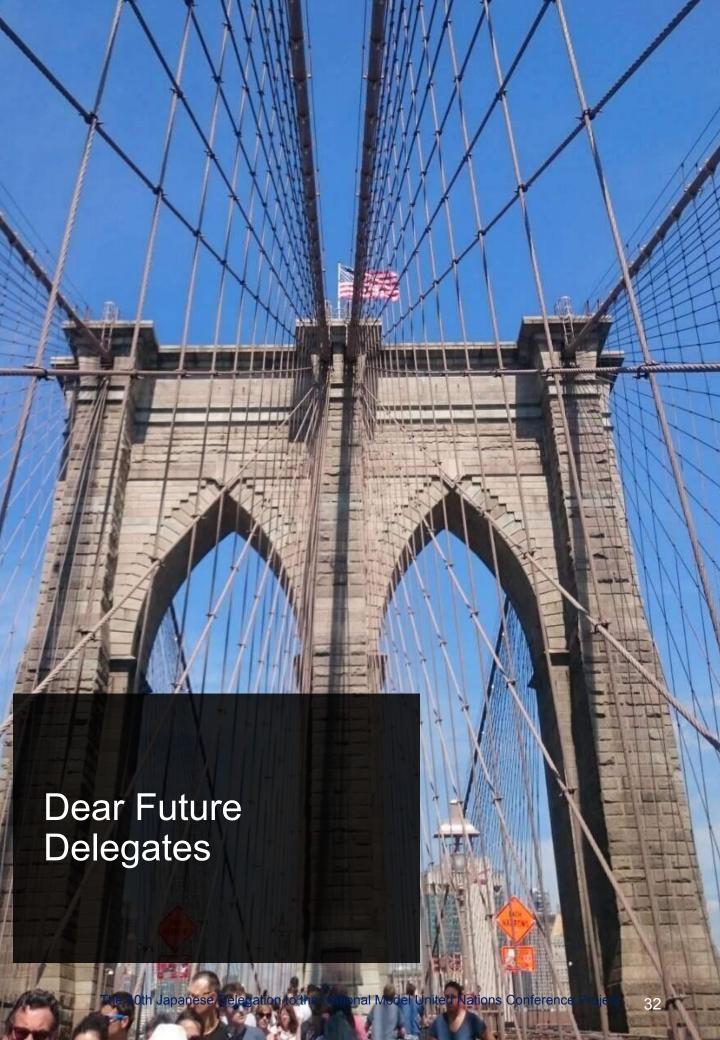
全米団が提示してくれるのは答えや道のりではなく、あくまでもそれを見つけるための手がかりです。あとは手探りでひらめきを得るしかありません。つい周囲からのアドバイスやDDPで教育されていることなどを理想としてそれに自分を近づけ、好例を模範しようという衝動が起こりがちですが、インプットした内容から一歩離れ、恐れずにその先入観を取り壊してみるといった挑戦は、むしろ新たな価値の創造につながると言えます。(細川)

「向上心の塊」

妥協することなく常に高い質を求め、最善・最高の結果を出すために、たゆまぬ努力を続けてきた団体だと思います。その裏には、一人一人の向上心と情熱と確固たる目的意識があると感じています。また、全米団を通して出会う様々な人との関わりの中で、沢山の刺激を受け、自分の新たな可能性を見つけたりなど、成長するきっかけに溢れている場所だと思います。(上村)

「稽古場」

全米団の活動において我々はインプットしたものを、NMUNという目標、ひいては将来を見据えた目標に向けてアウトプットを繰り返します。このひたすらトライアンドエラーを繰り返し、自分自身で試行錯誤し、客観的視点や自己内省に基づき改善し、徐々に成長していくこの流れは、学生時代に私が所属していた薙刀部の稽古場のそれと非常に似ていると感じました。上級者から真似び、それを自分なりに取り入れ、最終的には自分自身のオリジナルを確立させるという一連のプロセスを経験できる点は全米団の魅力の一つでもあります。(喜友名)



渡辺由璃子 (Yuriko WATANABE)

運営統括•団長



"Actions speak louder than words"

行動は言葉より雄弁なり。この言葉は有名なことわざです。文字通り、言葉で語るよりも行動に移すことの方が大事であり、価値があるという意味です。つまり、何かやりたいことがあったとしても、言葉で発するだけでは意味がなく、実行することこそに意味があるということです。

私は全米団に入団したいと研究会に入るタイミングで考えました。入りたいと考えることはいくらでもできますが、全米団に本気で入団したいと思っていたため、選考プロセスに参加するという行動に移しました。そして、全米団に入団して半年が経った今、全米団に入団して一切悔いはありません。勿論大変だったことは何度もありました。しかしそれを乗り越えられたからこそ、充実した団員期を過ごすことができ、これからも運営に励むことができると思います。自分で全米団に入団したいと心の底から思い、自分の意思で入団を決意したからこそ、今まで全米団に関わったことのある人に恩返ししたいと思っています。

自分のことは自分が一番よく知っています。そのため、自分で決めたことは自分の責任でもあります。しかし、自分で決めて実行したことは変えられません。変えられないからこそ悔いなく、挑戦すると決めたら全力で挑んてほしいです。待っているだけでは何も起こりません。もしアプライを少しでも迷っているのであれば、次の一歩を行動に移してみてはいかがでしょうか。全米団でお待ちしています。

喜友名理沙 (Risa KIYUNA)

副団長·英語DDP担当



"Now or Never"

これは、私が何かを迷った時、いつも頭の中に思い浮かべる言葉です。これを思い浮かべた後にはいつも、少しでも気になったり少し気になったりするのは何かしら縁があるということ、とりあえずやってみよう、なんくるないさあと覚悟を決め、一歩踏み出します。

大学生活は、能動的に動けば動くほど視野も行動範囲も広がり、これまでの学生生活に比べ、自分の世界が広くなったのではないでしょうか。今みなさんがこのガイドブックを手にとってくれているのも、全米団に何かしらの魅力を感じ、ご縁があってのことでしょう。

私は大学入学前に全米団の存在を知り大学生活でやりたいことはこれだとビビッと縁を感じ、大学模擬国連に入る前から全米団の選考にアプライすることを決めていました。ただこの時、不安が何もなかったわけではありません。気合いこそ強いものの、英語ネイティブでも模擬国連経験者でもなく何も実力がなかった私は選考結果発表当日まで地に足が着いていませんでしたが、あの時チャンスを信じ、挑戦して本当によかったと心のそこから思っています。

どんな挑戦にもリスクはつきものです。この時、そのまだ見ぬリスクに屈せず、それでもそのチャンスを生かすべく挑戦する熱意と覚悟が必要だと考えます。今このガイドブックを手に取りこのページまで読んでくれているみなさんでしたら、その覚悟はきっと十分でしょう。

チャンスを生かすも殺すも自分次第。頑張ると決めた自分を裏切らず、最後までぜひ走り抜けてください!他の局員がも述べているように入団後の全米団の活動においても成長のチャンスで溢れています。

みなさんの幸運を心より祈っております。皆様と共に全米団として活動できる日が楽しみです。

田代葵 (Aoi TASHIRO)

総務担当



"If there's one thing I'm willing to bet on, it's myself"

これは世界の歌姫ビヨンセの放った名言の一つで、私が昔から好きな言葉です。この言葉は自分に自信を持つことの大切さを伝えている名言です。しかし、人生において絶対的な自信を持って「自分自身」に賭けるには何が必要だと思いますか?

私は主に2つあると思っています。1つは「自分自身を知ること」です。自分の長所・短所、自分は何をしたいのか、何を目的にその活動を行っているのか等、自分自身を知ることはとても重要なことです。全米団の活動には様々なコンテンツがあり、自分は何が得意で、どのようにそのスキルを活かせるか。また何が不十分で、どのように克服するのか。自分自身を見つめ直し、考える機会が多く設けられていると思います。

そして2つ目は「努力すること」です。自分自身を分析するだけでは意味がありません。継続的な努力によってのみ人は成長できると思っています。全米団の活動は楽しいことばかりではありません。挫折しそうになることもあると思います。でも、努力し乗り越えた先には、必ず「自分に賭ける」根拠が沢山できるほどの成長があると信じています。

全米団で共に挑戦し成長して、自分に自信を持てるくらい成長しませんか?

片山菜穂 (Naho KATAYAMA)

選考プロセス担当



"In the difficulties lies opportunity"

これは、昨年私が挑んだ選考プロセスのコンセプトであり、選考を乗り越えるための心の支えとなってくれた言葉です。当初は、半分「夢」だと思っていた全米団への入団。それを実現できたのは、選考という困難の中にあるチャンスを掴むべく「挑戦」し続けたからであると信じています。

今、このガイドブックを読んでくださっている皆さんは、全米団のどのような点に惹かれ、どこに自分との接点を見出していますか?なぜ、全米団での成長に挑戦してみたいという思いを抱いているのでしょうか?

成功が保証された挑戦はどこにもありません。挑戦しなければ成功も生まれません。しかし、挑戦し、やり遂げた暁には、必ず「成長」という「成功」を得ることができます。少しでも自分と全米団に交わりを見つけ、自分なりに世界に向き合いたいという思いを持っている方は、今持っている力を理由に自分に制約をかけるのではなく、その力を信じ、それを土台にして一歩先へ踏み出していただきたいと願っています。DDPや一連の政策立案プロセス、大会出場による外交の疑似体験から、全米団の継承・発展のための運営までといった多岐に渡る活動を通し、団員局員・OBOGの方々を始め、顧問の先生方、ブリーフィングでお目にかかる世界でご活躍されている方々、大会で出会う世界中の学生達など、想像できないほど素敵な出会いや、豊かな学びを、主体的に動けば動くほど得ることができます。「全米団への入団」という入り口に、皆さんが一歩踏み出してくださることを心待ちにしています。

細川未智 (Michi HOSOKAWA)

研究担当



"Don't follow in others' footsteps; walk in your own"

自分より優れた人たちに囲まれていると、彼らの意見や方法に対してつい納得したり、共感したりしてしまう経験をされたことはありますか。全米団はまさに、多くの尊敬のできる非常に優秀な先輩や同期に出逢える場のひとつです。そのような秀でた人々が集まる団体であるからこそ、全米団は既存の枠にとらわれない自己を実現するのにもってこいな環境であると言えます。

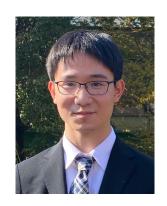
人間は誕生してから他の人間を真似ることで成長していくのは確かです。 しかし、いずれは自立し、逸脱行動に走ったり、時には反発したりする時が 来ます。全米団もそのような「自己を持つ」場面が多々必要になります。先 例を鵜呑みにせず、目先のことを自己目的化せず、目的に合った思考と行 動をする。全米団は、このように自分の殻を破ってみたいという熱心な方を 歓迎いたします。

「古人の跡を求めず、古人の求めたるところを求めよ。」他者への憧れはあくまでも主観的であり、今、ある状況に置かれているあなたが真似するのにふさわしいとは限りません。松尾芭蕉が言うに、他人の足跡を辿るのではなく、彼らの目指す先に向かって自分の足跡を残していく、これこそあなたが辿っていくべき道である、最後にこの価値観を皆さんに共有したいです。

全米団を通して何かを創りたい、残したい。そんな思いを持つ方にアプライを強くおすすめします。そしてこれが自己理解を深める機会になることを保証します。

下岡拓嗣 (Takuji SHIMOOKA)

DDP担当



"Stay hungry, stay foolish"

これはスティーブジョブズがスタンフォード大学の卒業式で述べた言葉であり、「安住すること無く、こだわり、探し続けること、そして、これまでの前例や常識に縛られないことが重要である」という意味が込められています。

コンフォートゾーンを飛び出し成長と飛躍を求めて全米団にアプライしようと決断した方。まず私はそのような方々を全力で応援・サポートいたします。他者の目を気にし過ぎることなく自分の興味に正直に、「点と点は繋がる」のだと信じて自らの決断した点を紡いでいってください。

一方で、まだ選考にアプライするか迷っている方もおられるでしょう。私は そのような方に二つのことを約束します。

1つ、全米団は楽しい活動です。もちろん、活動では順調な時だけでなく 迷ったり悩んだりする時も多いでしょう。しかし、信頼できる 17人の仲間と共 に悩み、考え、成長できた暁には笑い喜ぶことができる。このような活動を 「楽しい」と言わずに何というのでしょうか。

2つ、全米団は役に立つ活動です。楽しい全米団活動を通じてメンバーの一人一人が考え続け、挑戦し、様々な能力や経験を得ることができます。ここで培った能力や経験はNMUNのみならず今後の模擬国連活動や人生で役に立つこと間違いないでしょう。

それでは皆さん、全米団でお会いできることを楽しみにしています。

上村まりね (Marine UEMURA)

会計·英語DDP担当



「一歩踏み出す勇気、くじけぬ勇気、自分に負けない勇気。勇気こそが壁を破る。」

まず、全米団に興味を持ち、このガイドブックを開いてくださり、ありがとうございます。ここまで 読んでくださった 皆さんの 中には、「挑戦してみたい!」と決意に燃えている方もいれば、一方「自分にできるのかな、不安だな」と感じ、アプライすることを迷っている方もいるかもしれません。私自身アプライに向けて沢山悩んだので、状況は違うかもしれませんが、その気持ちは分かるような気がします。

そんな皆さんに私は、是非困難に立ち向かう勇気を持ってほしいです。 1 年8ヶ月にわたる全米団での活動は、日々学びが多く、最高に充実していますが、時には壁にぶつかり、悩み葛藤することもあります。選考プロセスも、一筋縄ではいかないことがあるでしょう。しかし、失敗や挫折を恐れて、一生に一度の挑戦の機会を逃してしまうのは大変もったいないことです。困難とそれを乗り越えるための絶え間ない努力があってこそ、人間は強く大きく成長することができます。どうか恐れずに、少しの勇気と自信を持ってみてください。

4年間しかない貴重な大学時代ですから、皆さんには大成長の日々を送っていただきたいです。全米団には、その環境と皆さんが活躍できるようなサポート体制が十分に整っています。是非、勇気の一歩で、挑戦の扉を自分らしく開いてください。皆さんに会えることを心待ちにしております。

織田万結子 (Mayuko ODA)

涉外·事業報告書担当



「"選択"には意味がない」

ある日偶然巡り合ったこの言葉は、今では私を動かす原動力となっています。

この全米団へのアプライは皆さんにとって大きな「選択」です。そして新たな一歩を踏み出すことは、とても勇気のいることかもしれません。しかし、後から振り返り、成し遂げたことや得たものの大きさを考えると、その時の勇気は意外と小さく感じるのではないでしょうか。重要なのは、どんな選択をしても「何があっても楽しい人生にするぞ」・「充実した人生にするぞ」というマインドセットだと思います。

幸運なことに、全米団には、充実した日々を送る手助けをしてくれるものがたくさん揃っています。DDP、全米大会、ブリーフィング、提携校交流、事業運などの活動は、新たな自分や価値観に出会い、新しい景色を目にするチャンスになります。そして、向上心の高い個性豊かなメンバー達が、それらをより楽しく有意義なものにしてくれます。勿論、悪戦苦闘した経験もあります。でも私は今、全米団に入って良かったと心から思うのです。

自分の選択を「正解」にするのは、自分自身です。一歩踏み出したからこそ見える世界を私たちと共有しませんか。

山下咲子 (Sakiko YAMASHITA)

企画 - 広報担当



「水滴石穿(すいてきせきせん)」

この言葉は、水滴も同じ位置に落ち続ければ、いずれ石に穴をあけることができることから、小さい力でも積み重なれば大きな力になることを意味しています。「雨垂れ石を穿つ」とも言います。

このガイドブックを見ている人の中には、全米団アプライに悩んでいる人もいるでしょう。アプライを考えているという事は、おそらく皆さんにはそれぞれの目標・やりたいことがあり、アプライへ挑戦しようとしてくれているのだと思います。私は、それぞれの目標のために挑戦・努力する皆さんの姿勢を大変尊敬しますし、それを継続してほしいと考えます。全米団へのアプライは皆さんの人生の中であくまで過程であり、ゴールではありません。選考の結果、全米団員になっても、もしくはそれ以外の道を歩んでも、挑戦・努力を継続しなければ、結局自分の力にはなりません。皆さんには、アプライをゴールとして終わらせるのではなく、挑戦・努力の一過程として捉え、皆さん自身の目標のため、これらを継続していってほしいです。また私達運営局員も、皆さんのさらなる挑戦・努力に繋がるものを提供できるよう尽力する所存です。皆さんの夢あるアプライを心よりお待ちしています。

よくある質問

Q. 渡米費用はどれくらいかかりますか?

例年、協賛してくださる財団様、企業様、JMUNのご支援も含めて自己負担金が15万~20万円前後で渡米します。(現地での食費や生活費は含まれていません。)なおこれはあくまでも参考であり、毎年参加費は変動します。

Q. DDPや事業報告会で東京に行く回数はどれくらいですか?

代によって異なりますが、例年全員が東京に集まる回数は団員期、局員期合わせて10回程度です。昨年度は感染拡大防止に配慮しながら、2月・3月以外は対面で活動を行いました。政策発表会と事業報告会は関東・関西それぞれで集まり、全体DDPではZoomにてオンラインで行いました。

Q. 倍率はどれくらいですか?

例年2~3倍です。

Q. 英語力はどれくらい必要ですか?

全米大会出場を前提としているため、英語で書かれた文書を理解でき、スピーチや海外の学生との議論、交渉を英語で行える程度の力が必要です。また、アメリカの提携校のペアと共同で準備を進めるため、英語でのコミュニケーション能力も重要です。しかし、選考プロセスにおいて、応募者の方の英語力だけでなく多様な能力を総合的に考慮します。また、英語力を上げるコンテンツをDDP内でも実施しますので、自分の英語力に自信がない方でも諦めずにアプライしていただきたいです。

よくある質問

Q. 選考プロセスの情報が欲しいです!

基本的に選考プロセスに関する情報は全米団のホームページや公式Facebook、Twitter、LINE@、全米団メーリングリストでお知らせしています。現時点でお知らせできる情報は以下の通りです。

【選考日程概要】

7月下旬:応募要項公開

8月1日:応募開始 8月末:応募締め切り

9月~10月頃:選考実施

10月末:団員発表

選考への応募、及び選考課題の概要に関する詳細は、公式HPにて公開されている応募要項に記載されておりますので、そちらをご確認ください。

Q. 全米団についての情報はどこから手に入りますか?

基本的には全米団のホームページや公式 acebook、TwitterなどのSNSで発信しています。

全米団ホームページでは、当事業に寄せられるご質問に対する回答をまとめた「模擬国連会議全米大会日本代表団派遣事業 FAQs」 が公開されておりますので、そちらもご覧ください。そのほか、疑問点やご相談がありましたら、SNSを通じてお気軽にご連絡ください。また、お知り合いの全米団員にもお気軽にお声掛けください!

HP・SNSのご案内

全米団公式HP

https://nmun-jpn.jimdo.com/

全米団公式Instagram

https://www.instagram.com/japanmun nmun/

全米団公式Twitter

https://twitter.com/japanmun_nmun

全米団公式Facebook

https://ja-jp.facebook.com/jpn.to.nmun/

全米団公式Youtube

https://www.youtube.com/channel/UCWs9f25geySDIq-1hRSa G_w

協賛財団・企業様

以下敬称略 公益財団法人 双日国際交流財団 公益財団法人 三菱UFJ国際財団 日米友好基金

後援団体様

以下敬称略 外務省 文部科学省

